

やり直しのできる社会を！

新宿連絡会NEWS

2004.12.1
VOL. 39

新宿野宿労働者の生活・就労保障を求める連絡会議
〒111-0021 東京都台東区日本堤1-25-11
山谷労働者福祉会館気付
TEL.090-3818-3450 FAX.03-3373-9878
<http://www.tokyohomeless.com>

来年度雇用対策予算確保に向け、120名の仲間で国会請願行動を行いました。

11月4日、釜が崎反失連、NPO釜が崎支援機構、新宿連絡会、新宿連絡会やねの会、NPO新宿ホームレス支援機構、池袋連絡会、NPO北九州ホームレス支援機構の各団体は合同で「ホームレスの雇用対策予算枠の確保」を求める請願書を提出しました。提出に先駆け120名の野宿の仲間が衆議院議員会館前で座り込みながら集会を行いこの間の全国での雇用創出に向けた取組みを報告し合いました。

正午、請願書の紹介議員になられた国会議員の方が続々と結集してくれ全国で集めた52317通の署名簿を各議員に手渡し、共にたたかう決意を交換しあいました。

「景気が良くなった」と、政府は「つなぎ雇用」実績のある緊急地域雇用創出特別交付金事業を今年度で廃止しようとしており、この事業を活用しながら仲間の自立支援を取り組んで来た各地の団体は「ホームレス対策の後退」と反対の声をあげています。東京においても「地域生活移行支援事業」の雇用対策として活用されたばかりであり、廃止問題は路上脱却を果たそうとする仲間の死活問題で

す。ホームレス自立支援法制定後2年を経過したものの、自治体の実施計画とその実施は「まだら模様状態」でとうてい全国一律の施策とはなっていません。その結果、地方から都市へと失業野宿者を流動化させ続けています。いつまで経っても問題が沈静化しない状況の中、雇用対策を軸としたホームレス対策の全国的な実施は急務な政治課題であると考えます。

私たちが放った「請願」と云うひとつの提案がどのように国会で、そして補正予算や来年度予算で反映されるのか見守っていきたいと思います。



新宿での地域生活移行支援事業は

いよいよ終盤

7月1日、新宿における「地域生活移行支援事業」がようやく開始され、以降順調に仲間のアパート移行が進められています。11月初頭段階で中央公園、戸山公園の仲間130名が移行、当初計画では12月末まででしたが来年1月まで事業が延長され、トータルで250名前後の仲間が移行を済ませる予定です。

アパート移行に伴い、都立公園などの「臨時就労斡旋」も9月より開始、当面の生活再建と再就職のための資金稼ぎと位置づけ、多くの仲間が毎日汗を流して働いています。

この事業は当初「公園からの排除計画」であるとの批判もありましたが、連絡会としては「利用するしないは当事者が決める」と「選択権の保障」を強く要望し、交渉の結果、「選択権の尊重」を大原則とする事が確認されました。そうは言っても事業が開始される

とどうしても「事業の勧誘」になってしまう傾向については、両公園とも民間団体が直接の窓口になる事で防止させています。また、事業対象者もテント生活者のみとせず、両「公園で起居している者」と幅を広げさせ、昼間公園のベンチや芝生で寝ている仲間も対象にさせる事に成功しました。

また、路上コミュニティ破壊、団結破壊であるとの批判もある中、連絡会は公園に残る仲間もアパートに移る仲間も、「同じ仲間」であるとし、アパート移行組を対象にした「新宿連絡会やねの会」を結成、これまでの路上の仲間の団結を維持していくと同時に、新たな団結形態の枠組みを形成しました。「やねの会」は現在、会員を募っている段階ですが、国会請願行動への参加を皮切りに、越年越冬闘争でのボランティア部隊としての

| 対象公園 | 月日 | 9/1 | 9/16 | 10/1 | 10/16 | 11/2 |
|----------------|------|-----|------|------|-------|------|
| 新宿中央公園 | 移行人数 | 3 | 5 | 8 | 22 | 14 |
| | 累計 | 3 | 8 | 16 | 38 | 52 |
| 希望者数 <184名> | 残人数 | 181 | 176 | 168 | 146 | 132 |
| 戸山公園 | 移行人数 | 5 | 12 | 17 | 22 | 22 |
| | 累計 | 5 | 17 | 34 | 56 | 78 |
| 希望者数 <228名> | 残人数 | 223 | 211 | 194 | 172 | 150 |
| 総移行人数 | | 8 | 25 | 50 | 94 | 130 |

東京都保健福祉局作成11月2日現在地域生活移行支援事業移行実績表

形成、そして「事業」に対する改善要望を来春に向けて準備をしています。とりわけ2年後のアパート「更新」問題の早期決着（7月説明会段階では2年後の更新問題のツメは検討中との回答）、そして都営住宅枠の確保（当初計画では謳われていながら住宅局との調整がつかず現在棚上げになっている問題）を目指して行きたいと思っています。

他方、「臨時就労」は半年間限定であり、かつ今年度は緊急地域雇用創出特別交付金事業で賄われています。全体として雇用対策枠の継続を求めると同時に、半年後の生活設計を、「常用労働」「パート労働」「日雇労働」「雑業自営」「半福祉半福祉」「福祉」等の多様なコースを作り、可能な限り自前でアパートを確保し続けられる展望を切り開かなければなりません。連絡会としてもNPO新宿就労支援センター（無料職業紹介所）や働きたいみんなのネットワーク（無料職業紹介所）等と協力し再就職支援、職業開拓、福祉行動等で全面的にバックアップしていくつもりです。既に連絡会経由の求人が自立支援センターで活用されている例があり、この分野での蓄積とチャレンジが仲間の生活を支える大きな武器になる筈です。

仲間が低家賃アパートを確保したと云う小さな出来事が、全ての仲間の可能性の扉を大きく切り開いたと私たちは確信しています。仲間との信頼関係がある限り、この事業は必ず成功します。

今後、地域生活移行支援事業は12月から隅田公園、来年度、上野公園、代々木公園へと対象地域を推移させて行きます。この事業を生かすも殺すも、支援団体と仲間との関係、そして支援団体の発想の豊かさにある

と考えます。

「走り続けて来た」新宿の実例を他地域では誰が引き継ぐのか？注目をしていきたいと思います。

もちろん、今回この事業に参加しなかった仲間も多くいます。新宿の仲間では鼻から断った仲間は少なく、皆、悩み抜き、様々な人と相談をし「苦渋の決断」をし抜いた者ばかりです。とりわけ「新宿区内」のアパート確保が予想より困難を極めた事の影響が指摘されていますが、それも含めそれぞれがそれぞれの事情を抱えている現状で「決断」に時間がかかる仲間も少なくありません。今回事業に乗らなかった仲間を非難する権利は誰にもありません。排除はもちろん私たちがさせません。石原知事が公言した「追い出し条例」などもっての外であり、この動きが本格化するならば私たちは身体を張ってでも阻止します。

私たちは地域生活移行支援事業をグレードアップさせ、再度新宿の地で実施する事をこれから要求していきます。駅周辺の仲間、小公園にいる仲間は今回の事業の対象外でした。そんな仲間も含め、新宿から何度でもやり直せる「屋根と仕事」につながる施策を必ずや拡大させます。



臨時就労説明会の様子。皆、仕事の話は真剣に耳を傾ける。

一人でみるな紅白、

一人で聞くな除夜の鐘！

大みそかは新宿中央公園で

夜通しどんちゃか大イベント！

第11次

初詣では熊野神社で！

新宿越年越冬

12月29日～1月3日

連日 午前11時中央公園

ポケットパーク集合

<12月31日越年祭り午後7時より>

五十嵐正史&ソウルブラザーズ登場！

紅白、カラオケ、年越しそば、

そして新春乾杯！



新宿連絡会NEWS / VOL.39 2004年12月1日発行

編集・発行 新宿野宿労働者の生活・就労保障を求める連絡会議（新宿連絡会）

111-0021東京都台東区日本堤1-25-11山谷労働者福祉会館貳付

電話・FAX 03-3876-7073もしくは090-3818-3450（笠井）

カンパ金送付先・郵便振替口座00170-1-723682「新宿連絡会」

メール・shinjuku@tokyohomeless.com <http://www.tokyohomeless.com>

編集協力・ろじゅく編集室 東京都新宿区西新宿4-32-4-603 rojuku@d9.dion.ne.jp